

---

# 揺らく想い ～初恋～

来玖未来

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

揺らぐ想い ～初恋～

### 【Nコード】

N1586R

### 【作者名】

来玖未来

### 【あらすじ】

初恋は叶わない たとえ告白したとしても・・・

その時の私の感情を言葉にしました ノンフィクションです

(前書き)

はじめまして 来玖未来第1号の作品です

小説ではなく詩?みたいなものです

私が初恋の人に告白する前から書きとめていた、私の心の声です  
誰もが共感する内容だと思います

「恋なんてもうしない」

なんて何回言っただろう…

あの人のことを思うたび私は何回この言葉を唱えただろう

よく初恋は叶わないって言われてるけど、私は信じたくなかった  
私を実証してみせる！　なんてたかが…

自分で空回っている事にさえ気がつかなかった

バカバカしくて話にならない

何度その人の前で恥をかいた事か…

10年以上片思いの初恋

ただの友達だった感情はいつしか恋愛感情へと変わっていった

世界が変わった気がした…

憧れ、尊敬、恋愛感情

私はその人事が好きで好きでしようがなかった

好きだという気持ちはだれにも止められない

まして、自分でさえも…

私は何回も、その人の事を嫌いになろうとか忘れようとか…そんな  
事ばっか考えてた

でも彼に会うたび、心が揺らぐ

もつともつと彼の事を知りたいと…目が追っっちゃってた

その時の心は、会えて嬉しい気持ち80%と、好きだという気持ち  
を知られたくなく押し殺す辛い気持ち20%が、会うたび出てくる  
そんなのを何年も続けてたら、一喜一憂で疲れてきたときもあった

だから私は、彼に今の私の気持ちを…

私はその初恋の人に告白をした…  
自分の中ではじめをつけるために…

私の気持ち…彼の気持ちをわかりたい、知りたかった

返事は即答で「ごめんなさい」

返事は期待してなかった、って言ったなら嘘になるけど…

まさか即答で帰ってくるなんて予想してなかったから、頭ん中真っ白  
涙すら出てこなかった

振られた？…振られた！？…振られた？…振られた…

頭ん中その言葉でいっぱいになり、そのうちあとから実感わいてき  
て…じわっ

なんだ…これ

目から…涙…振られた…

本当に初恋は叶わないみたい…

涙があふれてこぼれ落ちないように目線を上に向けたが、決壊した  
ものはどう頭に呼びかけても言う事を効かない

何やってるんだろう… バカバカしい

時間の無駄だった この10年なにやってたんだろう… こんな  
ことなら早く気づくべきだった

心のどこかで 彼なら今はダメでも、いつかはいい返事がかえって  
くる何て考えてた

甘かった…

悔しかった…

消えたかった…

振られた今…もうあなたには会えないよね

私はこの告白に賭けていた

振られたときはもう二度と合わないと…

だから「もう恋なんてしない」なんて言ってる自分と、振られてもそれでもその人の事ずっと考えてる自分がいて、自分でもどうしたらいいのかわからなくなってきた

新しい恋を始めたのに、自分でもわからない何かが悪魔して、周りに目が向かない…

向かないどころか…まだ彼の事が忘れられない

どうすればいいのかも解らず、ただただ時間だけが過ぎてゆき、想いだけが山のように積み重なっていく

その人の特別になりたい…

その人の一番になりたい…

あなたの特別になりたい…

もしも付き合えたら… もしもずっと二人でいられたら…

もしも結婚できたら… もしもその人の子どもができれば…

想像しただけで顔がほころぶ

「もしも…」の数だけ現実に引き戻される

フウツ…自分の想像に笑えてくる

何バカなこと想像してたんだろ…って

ねえ、私に告白されてちょっとでもうれしかった？

一回だけでいいから私の名前呼んで…それであきらめるから彼が私の事何とも思っていないのわかってた

バカじゃないの

絶対 だれにも言わない

絶対 好きになっってくれるまで…って思ってたのに

「時間がたてば忘れられる」なんてことも人に言われたような気がする

そうかもしれないと思いたい。でも実際は10年以上毎日のように彼を想い続けてきた想いを簡単に忘れる事ができるのか、答えのない毎日を送っていく

告白して落ち着いた頃に、彼に最後のメールを送った

私は告白して最後にメールで私の気持ちを伝えた…

今までの気持ちと、あきらめられないから「もう一度チャンスをご覧ください」って

自分の気持ちを全部その一通に乗せて送る

告白するよりドキドキした…

送信するまでに何回も深呼吸をした

送って、1時間過ち… 1日過ち… 1週間過ち…

きっと忙しいんだろうな…の言葉で気持ちを抑え込む

と同時に、もう1週間待っても来なかつたらあきらめよう…と自分に言い聞かせた

1か月が過ぎた…そして今日も来ることはない

ある歌手の一つの曲の中にこんな言葉があった

「もう二度と 君を愛さないと・・・」

何回あきらめようと、自分の頭に言い聞かせただろう…

「どこにいても 何をしてる時も 君の事が頭から離れない 教えてくれた 届かぬつらさ 恋の切なさ 愛する喜びも

その笑顔も 受話器こしの声も…」

どんなに相手を好きでいても、相手が自分の事を好きになっ  
てくれなければ意味はない

正直ここの歌詞は泣けてきた

本当に打ち消そうとしても頭から離れない

「心の中で君を思うことが 明日の力に代わってく

もしも向き合えたなら同じ歩幅で 信じ会える道を歩いて行こう

こんなにも君を思うだけで苦しくて愛しさつのる気持ち 会いたく

て 君の好きな歌を繰り返し 口ずさんだ帰り道…」

ほんの些細なことでテンションが上がったり、その日一日の糧にな  
ったりするから不思議だった

一日だって彼の事を考えなかった日はない

いつも目線の先には彼がいて、目が離せない

私は彼のことをずっとみてきたんだから

雨の日も、風の日も、雪の日も、吹雪の日だって

それだけ彼のことよく知ってるの そんな昨日今日の私じゃないの  
ずっとだよ ずっとみてきたんだから

気がつくと彼のこと考えていて

眠る前には彼の顔が浮かぶ

何もかもがはじめてで、特別なんだと思った

だっけとみえてきたんだから…

振られた今でも、そう…

私は彼が好き ちゃんと恋愛感情で彼が大好き

初めて口に出した 心臓がドキドキする

ドキドキして 自分が彼を好きなんだって実感する

言葉にした時とか 好きって自覚した時 少し恥ずかしかった 少  
し嬉しかった

友達に言うのってこんなにドキドキするんだね

この曲はずっと好きな曲で、告白する前はうるってする感動曲だった  
でも告白したあとに聞いたとき、涙が止まらなかった…  
自分の心とシンクロしてしまい、初めて私は歌を聴いて泣いた

ちよつとだけ考えが変わった

相手に期待するだけ無駄。理想と現実の違い

相手にドキドキする事はあっても恋に繋げることはないだろう

もし誰かに恋に落ちたらその時は…

その人から一番遠くに離れるだけ。そのうち心も離れる気がする  
もう傷つきたくない…

ちよつとの事で舞い上がりたり落ち込んだり…

自分で自分を責めて

ある時、彼の気持ちを風の便りで聞いた

「意識していると…」

その言葉を聞いた瞬間、嬉しくもあり少しは彼の中に入れた気がした  
でも、今さらもういいよって思う気持ちが強くあった

だって、好きの重さが違う

一人でいるより二人でいたい

疲れたときに癒してくれるあの笑顔…

その笑顔一つで疲れなんてすぐに忘れられる  
それが恋の力

でも恋は人をダメにする感情だと思っ

自分が自分でなくなり、そんな感情は必要ないし、いらぬ物だ  
だから私はもう恋なんてしない

完

(後書き)

最後まで読んでいただいております。ありがとうございます。  
この人とはまだ友達という関係続けているので、この先うまくいく  
くかもしれないし…友達終わりがもしれません  
その時はまた続きを書かせてもらいます

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1586r/>

---

揺らく想い ~初恋~

2011年10月8日13時37分発行